



目次

『国際交流記録文集』第12号 発刊に寄せて 奈良学園大学 社会・国際連携センター長 善野 ハ千子
『国際交流の継続を願って』学長の挨拶 奈良学園大学 学長 辻 毅一郎
東アジア文化交流研修
令和2年度東アジア文化交流研修プログラム
「東アジア文化交流研修 (オンライン交流)」 〜奈良学園大学 初の扉を開いたオンライン国際交流〜 保健医療学部 教授 堀内 美由紀
「健康に関する古人の知恵と風習」 PPT
東アジア文化交流研修事後レポート 保健医療学部 平田 朝香・小山 りさ・井上 帆乃香
「特別支援教育における現状と課題-子どもの想い・家族の想い」 PPT
東アジア文化交流研修を終えて 人間教育学部 伊藤 美香・早川 千世
「日本の教員採用試験 〜教員になるための道のり〜 」
東アジア文化交流研修 (オンライン) 事後レポート 人間教育学部 安東 万瑠花・篠原 瑞希
カンボジア短期研修
令和2年度カンボジア短期研修プログラム ·······12
「カンボジア短期研修 (オンライン交流)」 〜出会えた喜びと、果たし得なかった想いと〜 人間教育学部 教授 松井 典夫
「新型コロナウイルスのワクチンと濃厚接触者」 PPT 保健医療学部 敲森 捷人・嶋野 加夕
「コロナと教育」 PPT 人間教育学部 高木 信明・宮井 悠帆
「コロナといのち」 РРТ 人間教育学部 小瀬 甘奈・井上 奈々・渡邉 美月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
「カンボジア短期研修オンライン交流会 振り返り座談会」
編集後記

『国際交流記録文集』第12号 発刊に寄せて

2020年度、コロナ禍収束に向けた多大な叡智と経費が世界規模で注力されました。しかし、大変残念なことに、ようやく対面授業も選択として戻りつつあった後期以降も、海外でのフェイスツーフェイスの現地研修を中止せざるを得ない状況が継続しています。

しかし、私たちはコロナに負けません。2020年度は現地研修プログラムに代えて、2つのオンライン交流を実現することができました。「東アジア文化交流研修」で奈良学園大学史上初のオンライン国際交流の扉を開き、続いて「カンボジア短期研修」でも充実させて頂きました。発表学生・視聴参加者合わせて120名を超える盛会の結果を頂きました。これも連携協定大学の皆様と本学の教職員の皆様の多大なご理解と協力のお陰と感謝しております。

これまで、各国の現地研修においても多くの皆様の支えを頂いて研修プログラムの充実を重ねて参りました。さらに、双方向として本学へ夏季・短期研修の留学生もお迎えし、大変強いつながりを構築して参りました。

いうまでもなく、この世界規模のパンデミックは、教育機関に限らず広くコミュニティや家族にも多大な影響を与えました。私は、忘れることのない2020年度をポジティブな視点から次の3点で捉えています。

1点目に、新型コロナウイルスによって、「生きると言うこと」「命と人権について考察するアプローチ」 を再考する機会を得たということです。

2点目に、「他国から学び、互いに学び合う」という考えは、新型コロナウイルス対応以外の場面でも様々に応用できる重要な点であるということです。

3点目に、このような交流会が学生や卒業生の皆さんが主人公となって未来思考の行動に転換するエネルギーの源になるという点です。

今回のオンライン交流では、ディスカッションが個別・断片的な議論にクローズすることなく、参加者の経験や根拠のあるデータによって、思考を深めたり共有し発信したりできる交流となったことにも感服致します。

コロナ禍においては、ソーシャルディスタンスは「新たな日常」となりました。しかし、心の距離は 引き離されることなく、つながり続けることも確信できたように思います。

最後になりましたが、本年度の社会・国際連携センターの活動に御協力頂きました皆様、また継続して、各学生の指導に温かい配慮と支援に誠心誠意あたられた本センター運営委員・構成員並びに職員各位に深く感謝致します。

奈良学園大学 社会・国際連携センター長 人間教育学部教授 **善野 八千子**



















国際交流の継続を願って

奈良学園大学 学長 计 毅一郎

奈良学園大学に名称が変更されてこの3月で7年が経過し4回目の卒業生が巣立って行きます。人間教育学部では、教員採用試験合格者が昨年の実績を上回ったばかりでなく、公務員、一般企業などへの就職も順調に進んでいます。保健医療学部では看護師の資格だけでなく、看護師と助産師、看護師と保健師というように2つの資格を同時に取得できるコースが設けられています。国家試験の合格率も今年は100%に近いと予想されています。加えて、2つの資格の同時取得に挑戦する人も10名以上になっています。奈良学園大学が標榜するきめ細かい教育にご尽力いただいている教職員の方々、それに応えて頑張った学生の皆さんの努力に敬意を表します。

国際交流活動は、従前からの交流プログラムを継続するとともに新規のプログラムを開発するなど、活発に行われてきました。しかし、皆さんご承知の通り昨年春以降、コロナウイルス・パンデミックのため、留学生の受入れと本学学生のフィリピン、カンボジア、タイ、ハワイ、中国、韓国への派遣、「トビタテ!留学Japan」への参加はすべて中止となりました。とても残念ですが、この国際交流を途絶えさせるわけにはいきません。そこで社会・国際連携センターでは、協定校やこれまでのプログラムに参加された方々と連絡を取り合い、韓国東亜大学との交流プログラムとカンボジア・メコン大学における研修プログラムについては、両大学の教員と学生のご理解ご協力を得てオンラインでの交流会を実施することができました。

昨年の文集のご挨拶でも述べましたが、昨今はインターネットを通してあらゆる機器が繋がる時代となってきています。情報通信技術によってグローバル化が一層進展する中で、フェイクニュースが拡散するなど新たな問題が生じてきています。混迷に陥らないようにするには、対面での交流がとても重要です。異なる環境で育った人々が互いに出会い、友達になり、相互理解を深めることが、様々な問題を解決に導くための第一歩であることに間違いありません。このパンデミックが一日も早く終息して、フェイスツーフェイスのコンタクトが可能となるように願うばかりです。

この文集では、主として上記のオンライン交流会に参加 した学生による交流の様子を取りまとめたものが報告され ています。

機会あるごとにお話していることですが、旅行とは異なる、何らかの目的をもって一定期間自国から海外へ出る留

学体験はとても貴重なものです。海外へ出て、改めて自国を眺めることにより自らの文化を自覚する機会となります。そして、異なる文化の下での生活を経験することにより、多様性とは何か、そしてそれを受け入れるとはどのようなことなのかを自ら考える機会となります。さらに、どのような国の人々も、例えば親切にされると嬉しいというような感情は皆同じだ、などのことを実感するでしょう。短いオンライン交流でもそれが少しでも感じられたのではないでしょうか。参加した人たちの貴重な経験を共有することができれば幸いです。来年は是非対面での交流を再開しましょう。











令和2年度 東アジア文化交流研修プログラム

■ 日 時 2020年11月25日(水) 15:00 ~ 16:30

進行方式 Zoomでオンライン発表会

15:00 ~ 15:10 (10分)

司会: 堀内 美由紀(奈良学園大学 保健医療学部 教授)

東亜大学校 中・日学部 教授 李 吉遠 歓迎のご挨拶

奈良学園大学 社会・国際連携センター長・教授 善野 八千子 開会のご挨拶

奈良学園大学の学生・東亜大学校の学生の紹介

15:10 ~ 16:20 (70分)

発表と質疑応答(全体で実質70分程度)

奈良学園大学の学生(7名) ⇒ 3グループ

東亜大学校の学生 (5名) ⇒ 3グループ

⇒ 合計6グループが発表

発表順番

発表者: 平田 朝香・小山 りさ・井上 帆乃香 (奈良学園大学)

テーマ:「健康に関する古人の知恵と風習」

発表者: キム テジュン・チェ アヒョン (東亜大学校)

2. テーマ:「コロナ時代の韓・日の社会文化の変化」

発表者:伊藤 美香・早川 千世 (奈良学園大学)

テーマ: 「特別支援教育における 現状と課題 - 子どもの想い・家族の想い」

発表者: ユン スヒョン・ホン ダウン (東亜大学校)

テーマ:「韓・日若者たちの子供の頃の遊びとおもちゃ」

発表者:安東 万瑠花・篠原 瑞希 (奈良学園大学)

テーマ: 「日本の教員採用試験~教員になるための道のり~」

発表者:キム ヨンジュ (東亜大学校) 6.

テーマ:「韓・日大学生同士のオンライン言語文化の交流の実際」

16:20 ~ 16:30 (10分)

閉会のご挨拶・講評

奈良学園大学 社会・国際連携センター長・教授 善野 八千子

東亜大学校 中・日学部 教授 李 吉遠



東アジア文化交流研修 (オンライン交流) ~奈良学園大学 初の扉を開いたオンライン国際交流~

保健医療学部 教授 堀内 美由紀

2020年11月25日、記念すべき10年目を迎えた東アジア文化交流研修がオンラインで開催された。

これまでは、本学に受け入れている中国の連携協定大学からの特別聴講生と本学学生が共に現地に出向き「日中韓の国際交流」として文化交流を中心につながりを深めてきた。

しかし、2020年度はCOVOD-19の流行により、直前まで開催や必要な準備の可否も不透明で、私にとってはまだ直接の面識もない相手校と、SNSを使って事前打合せを重ねる状況であった。そのような中開催に至った奈良学園大学歴史上初となる国際オンライン交流研修会には、東亜大学生は5名が、本学からは両学部の7名が発表者として、その他、双方60名を超える学生と教職員が参加した。

冒頭では、東亜大学中日学部教授李吉遠教授の歓迎のあいさつを頂き、本学からは社会・国際交流センター長 善野八千子教授よりの開会の言葉が満面の笑顔で交わされた。

東亜大学からは、「コロナ時代の韓・日の社会文化の変化」「韓・日若者たちの子供の頃の遊びとおもちゃ」「韓・日大学生同士のオンライン言語文化の交流の実際」の3題が、奈良学園大学からは「健康に関する古人の知恵と風習」「特別支援教育における現状と課題~子どもの想い・家族の想い~」「日本の教員採用試験~教員になるための道のり~」の3題が発表された。

東亜大学の学生たちは、日本の経済や文化をどのように 捉えているか、またCOVID-19が社会へ与えた影響に関 して調べたことを含む日韓の比較を流暢な日本語で発表し た。日本への関心の高さ、また大学における学びの深さが 推察されるものであった。本学の学生たちも自国の文化や 日本の教育の現状を丁寧にスライドで紹介した。

本学の学生にとっては、使用言語が日本語であり「準備はさほど難しくない」と考えていたと思うが、実際には「平易な日本語」「わかりやすい説明」に苦慮する様子が伺えた。「日本のこの文化の紹介は東亜大学の学生の皆さんに関心がある内容か」など、韓国の方々の生活や関心に関する知識不足を準備に入って実感しているようであった。これは、さらに多様な社会で生きていくことになる学生たちにはよい経験であったと考える。

私の専門領域は国際看護学で紹介するレイニンガーの 『文化的ケア理論』は、伝永された価値観、信念、生活様式 を理解せずに、健康維持や治療の成果は上げられない、と説 明している。これは、コミュニケーションにおいても同様で、 たとえ、本学の学生が韓国語を流暢に話せたとしても、韓国 の文化や社会を理解せずに信頼を築いていくことは難しい。

国交正常化から55年,国レベルでは難しい問題もあるが、未来を担う若者たちが、互いの国や文化に関心を持ち、好意を寄せて意見を交わす様子は、今後の明るい関係を想像させる。交流部分では、アニメや還流ドラマの話など若者らしい話題にモニター上は笑顔であふれた。

全般的に、政治や経済に関心の薄い日本の学生たちではあるが、事実は事実として、それらに対する個々や国際社会の様々な見解にも触れつつ、新しい時代の価値観や関心事へ繋いでいってほしいと願う。

最後になりましたが、本交流会開催に際し、学生指導並び、準備にご尽力を賜りました東亜大学中日学部李吉遠教 授に心から感謝申し上げます。































健康に関する古人の知恵と風習

保健医療学部 1731134 平田 保健医療学部 1731217 / 1 保健医療学部 1731106 井上 帆乃香



おせち(御節)とは?

御節=「御節供(おせちく)」「節会(せちえ)」の略 中国から伝わった五節供の行事に由来するといわれている

- 1年5回の節の祝い膳
 - ⇒ 節日の中でも、お正月は特に重要な日=正月料理へ
- 歳神様(としかみさま)へのお供え
- 日持ちがするものを重箱に入れて用意する
- -歳神様を静かに迎える、-神聖な火を使用しない、 -女性の家事からの解放
- 基本は地域によって少しずつ異なる



この形になったのは 明治 (1868-1912) 以降





食材にこめられた意味

- =「めでたい(鯛)」
- 伊達巻 (だてまき)
- = 学問や願い事が叶うように 数の子(かずのこ)
- = 沢山の子宝に恵まれるように 海老(えび)
- = 腰が曲がるまで長生きできるように

七草粥とは?

- 季節の節目である1月7日に 食べる
- 無病息災、健康長寿の願い を込めている
- 正月の祝い膳や祝い酒で弱った胃を休める



https://news.yahoo.co.jp/byline/ymjrky/20190107-00110254/

七草粥の歴史

1月7日「人日」

唐

日本

「七種菜羹」



七草=日本のハーブ

- ∘せり・・血をきれいにし、血管が固くなる事を防ぐなど
- ◦なずな熱を下げる・血を止める・特に骨を強くするなど
- ∘ごぎょう…咳を止める・むくみを軽減する
- ∘はこべら…いたみどめ・栄養素が高く民間の薬草として使われている
- ∘ ほとけのざ…胃を整える・血圧を下げる
- ∘すずな‥胃を整える・風邪予防
- ∘すずしろ・・体の冷えを緩和する



菘/鈴葉(すずな):神様を呼ぶための鈴 萬蔔/清白(すずしろ): 汚れのない清白 繁穣(はこべら): 繁栄がはびこる= いっぱいに広がる 芽:なでて汚れを 取り除く 御形(ごぎょう): 仏の体 ほとけのざ 芹(せり): 競り勝つ 仏の座(ほとけのざ): 仏様の 安廉 (ゆっくり座ること https://macaro-ni.jp/87692

まとめ

- ○健康に関する知識が昔からあり、生活に取り入れら れ伝えられてきた。
- ∘古人の教えは、現代においても有効である。

- スライドに使用した資料の出典
 ・https://hugkum.sho.jp/106911
 ・https://boxil.jp/beyond/a5496/
 ・https://inippon.net/日本の風習/2205.html
 ・https://kinarino.jp/

- https://hugkum.sho.jp/112728
 http://www.kongohin-kids.com/montheve/01.html



東アジア文化交流研修事後レポート

保健医療学部 1731134 平田 朝香 保健医療学部 1731217 小山 りさ 保健医療学部 1731106 井上 帆乃香

東アジア文化交流研修を通して、日本と韓国での文化等の「違い」だけでなく、昔ながらの遊び等、「共通」する事柄も多くあると学んだ。また、私たち日本人も知らなかったバーチャルハロウィン等のことを知り、私たちが普段気にしてないことを、交流というものを通して他国の方が調べることにより、自国を客観的にみることができる。それにより、その国の知識や文化について深めることで、国という壁を超えて人がつながっていくと感じた。

日本人は、母国語以外を話す際には、物怖じし、間違うことを恐れ、また、言語に対するコンプレックスを抱いている人が多い。しかし、東亜大学の学生は、流暢な日本語を話すことができているだけでなく、自分の意見を持っており、学ぶことに対する姿勢が前向きであったからこそ、説得力のある発表であったと感じた。これは、間違うことに対して物怖じせずに行動することができているからではないかと考える。

今回の東アジア文化交流研修は、コロナの影響により、 直接面と向かっての交流はできなかったが、オンライン交 流でも、画面越しで顔を見て話し合い、交流を深めること ができると感じた。また、直接会いに行かなくとも「すぐ に会える」といったオンラインだからこその利点を活かし、 対面で交流できる時を心待ちにし、今だからこそできるこ とをしていくことが大切であると考えた。







































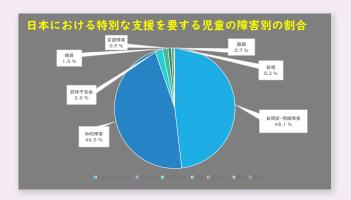
特別支援教育における現状と課題 -理念・子どもの想い・技術・家族の想い-

人間教育学部 1911201 伊藤 美香 人間教育学部 1911244 早川 千世

안녕하세요! 理念・子どもの想い・技術・家族の想い -長史園大学 人間教育学部 【小学校専修】 2回生 伊藤 美香(いとう みか) 早川 千世(はやかわ ちせ)

特別支援教育とは…?

障害を持つ児童の自立と 社会参加を支援するため の教育。



特別支援技術



- ・スクリーンリーダー・・・情報を音声で読み上げることによって 操作を補助する技術。
- ・点字ディスプレイ・・・平坦な表面にうたれた穴からドットが 上がってくることで点字を表す機能
- ・アクセンビリティ・・・利用しやすさ、交通の便 (ノンステップバス、障害者優先場所のこと)
- ・音声合成・・・人間の音声を人工的に作り出すことである



学習障害

LD: Learning Disorders

・読むこと、書くこと、 計算等をするのが難しい 人のこと。





トム・クルーズさん



〈失読症〉で悩んでいた

脚本が読めないトム・クルーズは 長い間、テープに録音してもらって セリフを覚えていた。 学生時代、いじめに悩んでいた。 I 2年間で I 5校の学校を転々とし ていた。

家族の想い

||き取り調査-- 障害のある兄に対しての想い --

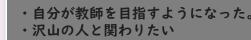
- ・兄と外出した時の周りの視線
- ・兄の機嫌が悪い時の対応
- ・兄が言いたいことが分からない辛さ
- ・互いに抱えるストレスが大きい



障がいのある兄弟がいる人たちも同じ意見が多かった

それでも…

どの家族もどれだけストレスを感じても、周りから変な目で見られても嫌だとは思わない。 むしろ居てくれるだけで幸せ。



兄がいてくれたから…

- ・人に優しくしたい
- ・どんな相手に対しても理解したいと思えるようになった。

兄の影響なのかもしれない。

〈結論〉

- ・AIやアプリを支援が必要な子どもたちに使う。
- ・子どもたちの気持ちに寄り添い、理解しよう とする姿勢を持つ。
- ・家族とのつながりを大切にする。
- ・<u>障害を大事な個性として認め合えるクラスの</u> 環境作りを目指す。

→私たちは教員をめざしています!

COVID-19





韓国の特別支援教育についても教えてください

감사합니다!!

参考文献:文部科学省 特別支援教育資料

https://ciatr.jp/topics/63024

キンタのブログ

https://www.magicaltoybox.org/kinta/2019/01/27/18665

www6.nhk.or.jp/baribara/message/single.html?i=87































東アジア文化交流研修を終えて

人間教育学部 1911201 伊藤 美香 人間教育学部 1911244 早川 千世

1. 学びたかったこと

1点目は、韓国と日本の特別支援の方法や考えについて 学びたいと思っていた。私が1回生の時、特別支援教育と いう研究テーマに興味を持ち調べた。特に学習支援につい て、興味を持ち、韓国にはどのような支援があるか、交流 を通して学び、日本の支援の仕方を伝えたいと考えてい た。

2点目に、異文化の大切さを学びたいと思っていた。1 回生の時に、フィリピンの語学研修に参加した。とても短 い語学研修だったが、自分の意思表示をする大切さや、文 化や環境の違い、日々当たり前に過ごせていることへの感 謝を学ぶことができた。もっと英語の語彙力を増やして、 すらすらと話せるようになりたいと思った。そして、まだ 自分が知らない国へ行き、更に視野を広げたいと感じた。

2. 学んだこと

私たちは、今回東アジア文化交流研修を通して大きく2 点のことを学ぶことができた。まず、1点目に文化の違い を学んだ。韓国の人たちはとてもラフで社交的だった。良 い意味で、すごくリラックスして、気軽に楽しく発表や交 流をしていた。また、新型コロナウイルスが流行している 中、韓国と日本の新型コロナウイルス感染予防対策の違い を知ることができた。大韓民国の人々と交流することで、 視野が広がり自分の国のことにも理解が深まり、異文化と の交流が多様性の需要が出来るようになった。

2点目に、発表するテーマについてである。私たちは、 日本の特別支援教育について発表したが、韓国の人たちに とっては少し難しいテーマであったと思う。

「特別支援教育」という考え方を理解して頂くように説 明することがまず重要であった。よく似た考え方や教育の 中での取組や施策があるのかを伝えあってから、このテー マを深く交流できたのでは無いかと考えた。

今後は、違いを比較する前にまず相手の国の実態を伝え て頂ける工夫ができるように努めていかねばならないと言 うことも学ばせて頂いた。

韓国での特別支援教育の在り方や、具体的にどのような 支援があるのかを交流できるとさらに良いものになると感 じた。

3.後輩に伝えたいこと

日常生活の中では、日本の文化は当たり前のことになっ ており、私たちにとって気づかないことが多いと思う。交 流することで、異なる視点でその違いに気づき、日本の文 化を再確認してほしい。そして、普段触れることのできな い大韓民国の学生と議論することで、文化の違いに気づ き、大学での学びの違い等たくさんのことを学んで欲し い。多様性や文化の違いを感じ、受け止められるように なってほしい。そのためにも、これから積極的に人と関わ りコミュニケーションをとるなど主体的に動ける人になっ てほしい。善野先生がおっしゃっている、3C【チャンス・ チャレンジ・チェンジ】を常に心にとめ色んな事に挑戦し ていってほしい。

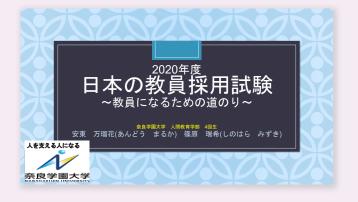


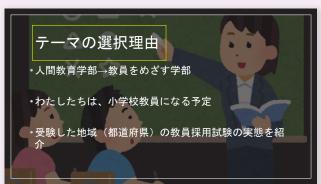


日本の教員採用試験 ℙ℡

~教員になるための道のり~

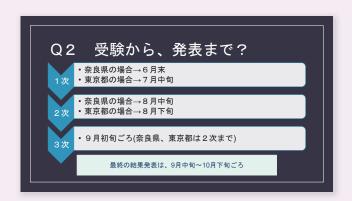
人間教育学部 17111101 安東 万瑠花 人間教育学部 17111111 篠原 瑞希











































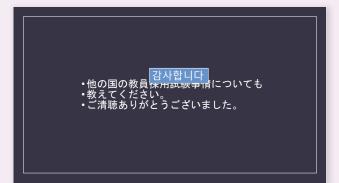














東アジア文化交流研修 (オンライン) 事後レポート

人間教育学部 1711101 安東 万瑠花 人間教育学部 1711111 篠原 瑞希

東アジア文化交流研修 (オンライン) で私たちが学びたいと思っていたことは2点あった。1点目は国際交流を通して韓国の文化や韓国の学生のことを理解すること、2点目は、他の国の教員採用試験事情について知るということの2点ある。事前レポートに書いた内容と関連させて、それはどのような成果があったのかについて以下に述べていく。

まず、1点目の国際交流を通して韓国の文化や韓国の学生のことについて知り理解することについて述べる。これは、オンライン形式となった今回の研修においても達成することができた。そのように感じる理由として、東亜大学の学生の発表の中で出てきた韓国における子どもの頃の遊びにその特徴があらわれていたということが挙げられる。その発表では、日本の竹馬などの昔からの文化も紹介されていたり、韓国の子どもの遊びとして、「吹き流しインク」を用いたお絵かきを紹介されていたりした。日本にも韓国のものと似た要素がある遊びが存在しているため、相違点も見つけることができた。このように互いの国の文化について調べ、紹介し、また真実を伝え合うことで互いの文化理解にもつながり、尊重する心をもつことができると考える。

次に2点目の、他の国の教員採用試験事情について知るということについて述べる。私たちが発表テーマに選んだ「日本の教員採用試験」は、私たちの体験談から日本独自の採用試験内容を伝えることができた。しかし、海外の教員採用試験事情について知ることはできなかった。教員養成の学部に在籍していなければ、質問することが難しかっ

たのではないかと考えられる。また、自分自身は東亜大学 の学生や先生に質問することもできなかった事は反省点で ある。

しかし、このような日本の独自の採用試験事情を体験談から伝えることで「日本らしさ」を感じてもらい、伝えられた意義は大きいと考える。もし、またこのような機会があれば、ぜひ海外の教員採用試験事情についても話を聞いてみたい。

以上、事前レポートに書いた内容と関連させて、それは どのような成果があったのかについて述べた。これまで は、東亜大学に実際に行って直接交流をしていたが、コロ ナウイルスの影響で今回はオンライン形式になった。その ことから、どのように文化交流発表会が行われるのか、本 当に交流ができるのかなど、参加前には少し不安があっ た。しかし始まった瞬間から、タイムラグがやや生じなが らも、まるですぐ近くに東亜大学の方々がいらっしゃるよ うな楽しく明るい雰囲気での研修を終えることができた。 コロナウイルスがおさまって海外に行き来できるようにな るまでは、オンライン形式での「国際交流」という新しい 様式が主流になってくることが容易に予想できる。オンラ イン交流だからこそ気をつけなければならないこともある が、自分がまだ知らないことに対して積極的に前のめりで 知ろうとしたり、交流しようとしたりするという姿勢は、 対面式でもオンライン形式でも変わることはない。今後も このような機会を活かして、積極的に国際交流をしていき たい。









令和2年度 カンボジア短期研修プログラム 奈良学園大学 社会・国際連携センター

日 時 2020年2月18日 (木) 15:00 ~ 17:00 (カンボジア現地時間 13:00 ~ 15:00)

進行方式 Zoomによるオンライン交流

テーマ コロナと人権 COVID-19 and Human Rights

プログラム 司会:山田 明広 奈良学園大学 人間教育学部 准教授

挨拶(5分)

Ⅰ・ 善野 八千子 奈良学園大学 社会・国際連携センター長・人間教育学部 教授 樋口 浩章 カンボジアメコン大学 日本語ビジネス学科長

趣旨説明(5分)

II. 松井 典夫 奈良学園大学 人間教育学部 教授

Ⅲ. 両学教員・学生紹介(5分)

Ⅳ. これまでのカンボジア研修 (5分)

V. いのちのディスカッション2020 V. 「コロナと人権 COVID-19 and Human Rights」(60分)

総括講演(10分)

カンボジア

- カンボジアメコン大学生及び卒業生
- 樋口浩章先生 (カンボジアメコン大学 日本語ビジネス学科長) 共同ホスト、通訳、コーディネーター
- 春日源子先生 (カンボジアメコン大学 日本語ビジネス学科教員) 通訳、コーディネーター

日 本

- 今年度参加希望学生 7 名 (人間教育学部 5 名、保健医療学部 2 名)
- ・松井典夫先生(奈良学園大学 人間教育学部教授)ホスト、コーディネーター
- ・山田明広先生 (奈良学園大学 人間教育学部准教授) 共同ホスト、司会、オンライン管理

audience:参加希望者・これまでの研修参加者で、参加を希望する学生-参加希望教員 カンボジア研修に関心を持つ、両学部学生



カンボジア短期研修 (オンライン交流) ~出会えた喜びと、果たし得なかった想いと~

人間教育学部 教授 松井 典夫

2020年2月に実施したカンボジア短期研修は、学生たちの志と夢半ばにして、2月18日に帰国を余儀なくされた。新型コロナウイルスの影響…というよりも、プノンペンから南西に、およそ230Km離れたシアヌークビルに、大型クルーズ船の「ウエステルダム号」が停泊したことが主たる要因だった。そのとき、日本の横浜港に停泊していたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」号の話題から、クルーズ船はコロナ禍の一つの象徴的な存在となっていたのだった。



2020 年 12 月 25 日 カンボジア研修に向けた事前学習会

無念の帰国から10カ月経った2020年12月、2021年度のカンボジア研修への参加希望を募集したところ、8名の学生がエントリーした。

なかでも、保健医療学部から2名がエントリーしたことは、 とても嬉しいことだった。そして事前学習会を始めた。こ の時点では、誰もが2021年2月に彼の地に降り立つ自身の 姿をまだ消し去っていなかったし、事前学習もカンボジア に行くことを前提として進めていた。しかし淡い期待は打 ち砕かれ、1月半ばに本研修の「現地での実施」の中止が決 定された。カンボジアとの、とくにカンボジア・メコン大 学との連携、これまでの積み重ねをコロナのためにゼロに してはならない。そして何よりも、エントリーした学生が学 ぶ場を創出するべきだった。カンボジア・メコン大学の日 本語ビジネス学科長、樋口先生の賛同が得られ、「オンライ ン交流研修」の実施に向けて走り始めた。そして日時を、無 念の帰国をした1年後となる2021年2月18日に決め、内容 を、昨年の研修で唯一実施できなかったプログラム [いのち のディスカッション」に決めた。テーマは「コロナと人権」。 コロナ禍はカンボジアにどのような影響を与え、メコン大 学の学生たちはどのように立ち向かっているのか。発展途 上国で生き、学んでいるからこそ持ちえた彼らのフィロソ フィーに、私たちはいつも多大な影響と学びを得てきた。 オンラインで、それは果たし得るのだろうか。

実施までに、いくつかの困難があった。それは、国が違い、文化や国民性、そして環境が異なるがゆえの困難であり、当然のことだった。たとえば日本ではこのような「事業」を実施するにあたり、周到な準備を要求し、責任者を決め、スケジュールを整える。いわゆる「見通し」がなければ、それは成功を遠ざけているかのような不名誉な印象が与えられる。しかしカンボジアでは堅固な「見通し」は必要とされず、かえって煩わしいもののようである。たしかにその結果、堅い「見通し」がなかったからこそ偶発的で感動的な成果が得られることもある。個人的には圧倒的にそちらを好むが、やはり交流会までのやり取りにおいて、やきもきする場面も多かった。



2021 年 2 月 18 日 オンライ交流でのカンボジア・メコン大学の学生と先生たち

2021年2月18日。15時 (現地時間13時) からオンライン 交流は開始された。「いのちのディスカッション」において、 まずは両国から指定討論を行った。

「コロナと教育」「コロナと経済」そして「コロナといのち」という興味深いテーマでそれぞれの学生が調べ、まとめたものを発表した。短い時間の中で、互いの違いを知り、価値ある学び合いの場となった。コロナ禍で私たちが改めて得たものは、海外、あるいは遠方と容易につながることができるというICTである。しかし、終えてみると何かが大きく足りなかったことに気づく。カンボジアでいのちのディスカッションを展開したとき、そこには「熱」があった。出された意見に驚き、はっと息を飲む「空気」があった。異国の地で語り合っているのだと実感する「匂い」があった。ICTが便利であり、不可能を可能にしたことは確かだが、絶対的に足りないものが明確になった瞬間でもあった。

来年こそは、6時間のフライトの先にある「熱」「空気」「匂い」が得られることを、心から願ってやまない。































新型コロナウイルスの PPT ワクチンと濃厚接触者



保健医療学部 2031108 敲森 捷人 加夕 保健医療学部 2031121

New Coronavirus Vaccines and Close Contacts.

新型コロナウイルスの

のうこうせっしょくしゃ

ワクチンと 濃厚接触者

2031108 敲森捷人 Hayato Utsumori 2031121 嶋野加夕 Kayu Shimano

キーワード (Key Word)

- ○医療崩壊 (medical collpse) 必要な人に必要な医療が行き届かないこと
- ○差別(discrimination) 特定の個人を仲間外れにすること

キーワード (Key Word)

○自粛 (Voluntary restraint) 自分から進んで行動・言動を抑えること

The Current State of Vaccines in Japan. 現在のワクチンの状況

日本では2月中にも、アメリカのファイザーを接種開始。 In Japan, the vaccination of Pfizer in the U.S. will begin in February. 5月中に国民全員が接種する予定。 The entire population will be vaccinated by the end of May

The Current State of Vaccines in Japan. 現在のワクチンの状況

ゆうせんじゅんい いりょうしゃ こうれいしゃ びょうき(きそしっかん) も ○ 優先順位は医療者・高齢者・病気(基礎疾患)を持っている人の順。 The order of priority is medical personnel, the elderly, and people with illness (underlying disease).

What is a close contact?

濃厚接触者って?

○ 感染した人の近くにいて、感染の可能性が高い人。

A person who is in the vicinity of an infected person and has a high probability of infection.



Definition of close contact. のうこうせっしょくしゃ ていぎ 濃厚接触者の定義

○ 距離の近さと、時間の長さが関係。



Definition of close contact. 濃厚接触者の定義.

ひつよう かんせんよぼうさく ○ 必要な感染予防策をせずに感染者に手で触れる。 Touching an infected person with your hands without taking the necessary infection prevention measures.



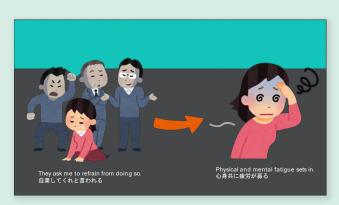






Discrimination against health care workers associated with new coronaviruses 新型コロナウイルスに伴う 医療従事者への差別





How can we stop discrimination? どうすれば差別はなくなるのか?



The True Cause of Medical Collapse in Japan 日本で医療崩壊が起こる真因 Overwhelmingly understaffed 圧倒的な人員不足 Small number of corona beds コロナ病床の少なさ



















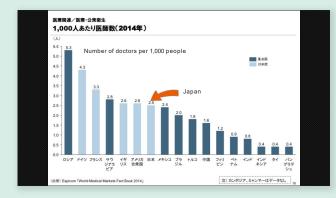


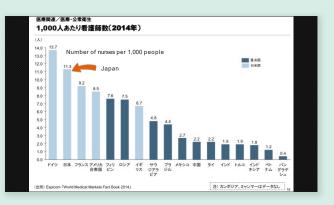












Solutions 解決策

- OTake advantage of the hospital beds that are free in Corona.
- ○コロナで逆に暇になっている病床のベッドを使用
- Olmproving the treatment of medical personnel
- ○医療従事者への待遇の改善







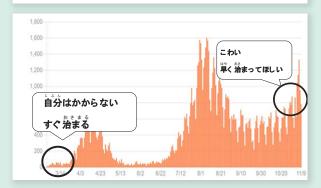


コロナと教育 PPT

人間教育学部 1811118 **高木 信明** 人間教育学部 1811510 **宮井 悠帆**

コロナと教育

3回生 高木信明 宮井悠帆



にほん きょういく とぐちょう 日本の教育の特徴 (Education in Japan)



/ 水学1年生



6字〜15字の子どもは、必ず 学校で教育を受けること (Children between 6 and 15 Are always educated at <u>school)</u>





キーワード Key Word

りんじきゅうこう
臨時休校

子供たちの傾原と安全のために、しばらくの間、学校を休みにすること

オンライン 授業

インターネットを使って勉強すること

変なきよういく
養務教育

67~15才の子どもが無償(お金を払わずに)勉強できる制度

学びの保証

子どもたちが勉強できるようにすること







カンボジアの学校では、 どんな変化がありましたか?































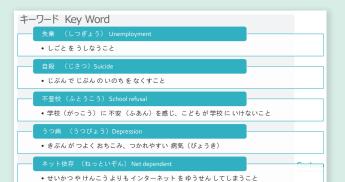


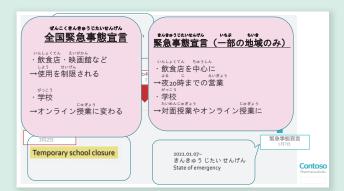
コロナといのち 📭

甘奈 人間教育学部 1811506 小瀬 人間教育学部 1811306 井上 奈矣月 人間教育学部 1811526 渡邉













Important notice for preventing COVID-19 outbreaks. **Avoid the "Three Cs"!**

・クラスターのリスクが あがる (disease cluster)

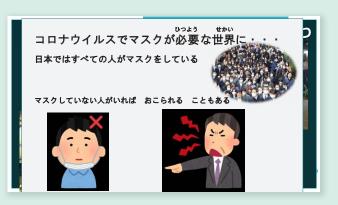
1、密閉(みっぺい)Closed spaces



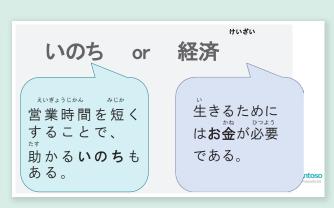


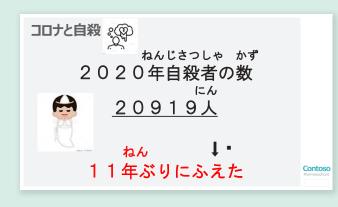




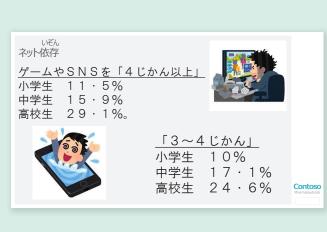












コロナで なくなってしまった いのち

たいさく
その 対策 によって なくなってしまった いのち

どちらも たいせつな いのち である

































カンボジア短期研修オンライン交流会 振り返り座談会

参加教員

人間教育学部 松井 典夫 オチャンテ・カルロス 保健医療学部 堀内 美由紀

参加学生

人間教育学部 高木 小瀬 甘奈 宮井 悠帆 井上 奈々 渡濞 美月

信明 保健医療学部 敲森 捷人 嶋野 加夕

2021年2月18日に開催された、カンボジア・メコン大学とのオンライン文化交流研修では、会えないと諦めかけていたけ ど「会えた」喜びと同時に、「もっと話したかった」という不完全燃焼もあったようです。そこで、Zoomによる振り返り4回に 分けて実施しました。そこには、学生たちの本音や内面、そしてこれからの研修の広がりや深まりを示唆するような、貴重な 意見も出てきました。学生が語ったニュアンスをそのまま記録することを目的として、Zoomミーティングのレコーディング から書き起こしたものを記載します(ただし、事情や都合で参加できなかった学生は、語りたかったことを文書で送ってくれ ていますので、それを転載しています。また、伝わりにくい表現等については、筆者(松井)の判断で文言を付け加えたりして います)。

松井 まず、このZoomミーティングで振り返りをす る目的ですが、たぶん、もしかすると、来年はカンボジア に行けると思います。わからないけどたぶん。そうなると、 今年の文化交流研修は、もしかしたらもうないかもしれな い、「歴史上に残しておきたい」研修の在り方になるかもし れません。そこで、このようなミーティングを開いてきち んと振り返り、記録に残そうというのがひとつの目的です。 もう一つの目的は、これは保健医療学部の堀内先生が提案 くださったのですが、まだ語れていないこと、もっと話した かったことがあるんじゃないか、そして、あの時何を感じた のか、ということを振り返りのミーティングをして掘り起こ すことは価値があるんじゃないかということを言ってくださ りました。その通りだと思います。そこで、今から私から、 いくつか質問するので、思いのまま語ってほしいと思いま す。それをこちらで書き起こして記録にしていきます。 では、始めましょう。

松 井 なぜ、カンボジア研修に参加を希望したのです か?

高 木 去年もカンボジア研修に参加して、本当にカン ボジアが好きだからです。それともう一つ、昨年の研修で 反省したことを、今年の研修でチャレンジしたかったとい う思いがありました。

松 井 昨年の反省とチャレンジとは?

高木 昨年の研修では授業プログラムで、伝えたいこ とを伝えることができませんでした。だから今年の研修で は、昨年の反省を生かして一から授業を組み立ててチャレ ンジしたいと思っていました。

松 井 高木くん、ありがとう。小瀬さんはどうですか? 参加しました。でも、コロナで途中で帰国することになって しまいました。やりたかったプログラムができなかったの で、それをしたかった。何より、カンボジアの良さを知って、 もう一度行きたいと思いました。

松井 小瀬さんのいうカンボジアの良さとは?

小瀬 空気と人の暖かさ 空港にでた時の空気です。

松井 わかる!日本は2月、とても寒いけど、プノンペ ン空港に降り立った時のあの熱気、そして異国の、アジア の匂い!

小瀬さん、ありがとう。では、初めて参加の敲森くんはど うですか?

一敲 森 かが海外留学してて、色々聞いていて、行って みたら変わるかなと思いました。

松井 何を変えたかったの?

(敲 森) ともかく経験として、一度海外に行ってみたい という気持ちが強かったです。実際に海外の人と出会いた かった。そして海外を感じたかったという思いです。

松井 敲森くん、ありがとう。では、同じく初めての 井上さんはどうですか?

井上 そうですね。大学に入学した時から、カンボジ ア研修の話を聞いていてずっと行きたいなと思っていまし た。しかしなかなか行動に移すことができず、ようやくこ の時期に行くことを決意しました。1番行きたい理由として、 カンボジアの現地の子供たちと関わる事を楽しみにしてい



ました。外国語習得という言語研修ではなくて、日本とは 違った価値観や文化の人と出会ってつながりを感じグロー バルな感覚を持てるような人間になれたら良いなと思って 希望しました。

松井 井上さん、ありがとう。あとのみんなも初めての参加ですね。渡邉さんはどうですか?

渡邊 はい。私は外国に旅行として行ったことはあるのですが、実際に現地の方と深く交流したことがありませんでした。カンボジア研修を通して今までの価値観を考え直したり、新たな自分探しをしてみたいと思いカンボジア研修の参加を希望しました。また、教員を目指す上で外国の子どもたちと関わる経験はとても大切だと思いますし、教員になった時にも外国の様子を児童に話すネタになると思いました。

松井 渡邉さん、ありがとう。そして初めての嶋野さん、どうですか?

嶋野 高校生の頃から海外へ留学することにはとても 興味があったが、機会がありませんでした。また、発展途 上国の医療にも興味があったので、今回のカンボジア研修 はとても良い機会だと思い希望しました。

松井 みなさんの参加への思いがよくわかりました。 でも残念な事に、結局行くことができなくなりました。そ の時の気持ちは?

高木 正直、研修を申し込んでいる時から予想していました。中止になった時はやっぱりと思いました。悔しいなと思った。昨年の反省をできないのが悔しかった。でも、教採を頑張ろうと気持ちを切り替えて耐えました。

小瀬 私も行けないだろうと予想はしていました。中 止の知らせのメールが来て、ああ、と思った。悔しい、悲 しいという気持ち。会えないという気持ちが一番強かった です。

敲森 申し込む前から無理そうだと自分も予想はしていました。現地に行けないことが残念だった。どこでもいいので海外に、という気持ちが強かったので。それが叶えられなかった。

井上 私も正直、申し込んだ時から怪しいなとは思っていましたが、準備万端でパスポートの更新にも行きました。しかし、いけなくなったと正式に聞いたときには感染症の観点から考えると安心した気も少しはしましたが、実際自分の肌でカンボジアに触れられない事はとてもショックでした。行かないと感じられないことも絶対あるので、それはいつかリベンジしたいです。

渡 邊 1回生の時からカンボジア研修に行きたいと思っ

ており、今回初めて希望を出せてやっといけると思ってた のでとっても残念でした。また新型コロナウイルスの感染 が収まったら行きたいと思います。

嶋野 とても残念な気持ちでいっぱいでした。先生から去年の研修の際のお話を聞き、行きたい!という気持ちが大きくなっていたのでとにかく残念でした。

松井 みなさんの残念な気持ちがよくわかりました。 そして研修はオンライン交流会になりました。正直、どう 思った?

高木 正直、オンライン交流会と聞いたとき、自分たちはZoomで授業を受けたりしていたから環境は整っているけど、カンボジアの設備が整っているのかと疑問に思いました。国境を超えてできるのかと。また、ディスカッションをどうやってするのかなと。日本でのオンラインの授業も会話は成り立たない。先生が一方的に話してあててるだけで。実際にやったいのちのディスカッションみたいに盛り上がるのかなと。実際にできて繋がれたのは嬉しかったです。

小瀬 正直、オンライン交流会と聞いたとき、カンボジアの子たちとはFBとかで繋がっているので、電話とかでもいいと思っていた。でも、発表に向けてのプレゼン資料を作りながら、カンボジアに行ったとき、たくさんカンボジアのことを教えてもらったことを思い出して、詳しく調べて日本のことを伝えようと思いました。

敲森 ぼくも高木くんと同じように、やっぱり意見 交流ができるのかなと思った。ちゃんとできるのかなと。 Zoomでつながったとしても、会ってやるようにできるの かなと。

井上 実際目の前で会って話せないと仲良くなれないなと思う気持ちや、通信環境でうまいことできるのか不安もありましたが、オンラインで簡単に繋がれる時代になっただなぁと感心しました。カンボジアと日本がインターネット1つで繋がれる世界、凄くないですか!

宮井 交流で、オンラインで伝わるのか不安でした。 そして実感したのは、国や文化の違う人たちに伝えるとき の、言葉の使い方、言葉の選択がとても難しいということ に気づきました。

渡 漫 実際にカンボジアの人と関わったことがないため、日本語の理解度がわからなかったり、どこまで私達の伝えたいことが伝わるかが不安でした。カンボジア研修の経験者からアドバイスをもらいパワーポイントをつくりましたが、今まで当たり前の様にサクサク作っていたパワーポイントも、イラストや文字を工夫し、人に伝えることを重視



























したらとても時間がかかりました。カンボジアに行けないこ とはとても残念でしたが、オンライン交流会になったこと で、相手にわかりやすく伝えることの大変さを感じること ができました。

・ 止嶋野 正直に言うと、あまり気分は乗らなかったです。 現地に行って自分の目で様々なものを見て学びたいと思っ ていたのでオンラインか…という気持ちでした。

松 井 オンラインで交流することについては、いろい ろと疑問や不安があったことがわかりました。では、実際 にオンライン交流会を実施して、率直な感想は?

高木 カンボジアの子たちとつながれて嬉しかったで す。感じたのは、研修で発表したときに、向こうは日本語 で一生懸命に発表してくれました。母国語と違う言語で。 でもこちらは日本語で発表した。そこに壁を感じた。心の 中で引っかかりを感じました。あちらは日本語を頑張って る。ぼくたちも、現地の言葉や英語でしゃべるべきだと思っ た。そうすることによって、寄りそえあえると。

松井 素晴らしい!では高木くんは、カンボジア行っ たら日本語禁止ね。(みんな笑い)

小 瀬 まず、つながることの大切さを一番に実感しま した。そして、もっとディスカッションをしたいと思った。

松井 何について、もっと話したかった?

小瀬 もっと、「コロナいのちと経済の選択」について。 それからワクチンの接種の順番について。質問の時に話せ なかった。12月にカンボジアに行ったときに、いのちに対 する価値観に違いがあることを知りました。だから、この テーマだったらどんな違いがあるのか、知りたかった。

いたのは、メコン大学に大学の新入生が入ってきていない ということ。まず日本では考えられない。少ないながらも 入ってくる。

井 上 率直な感想は、カンボジアの子たち、日本語上 手!でした。伝えたいことを事前に調べて伝えようとする姿 は、これから私も頑張ろうと思う原動力になりました。今回 はコロナウィルスをテーマとしてディスカッションしたので すが、コロナの事でも違いがあんなにあったので、他のテー マでもディスカッションし、新たに違いを見つけたいと考え ました。ますます、カンボジアに行きたい気持ちが強くな りました。

宮井 私はカンボジアに行ったこともないし、話すこ とも顔を見ることも初めてでした。画面上でも、みんな笑 顔だったことが印象的でした。その笑顔を見ながら、本当 は私たち日本人よりも、いろんなことで苦労しているはず なのに、みんな会話しながら笑顔だった。そんな姿を見な がら、私自身が「ほっこり」しました。

渡 邉 オンラインでも内容の濃い素敵な交流会になっ たと思います。でも実際にカンボジアに行ったら1対1で もっと濃い交流ができますし、どうしてもオンライン交流 会となると、先生を挟んでの堅苦しい建前のような交流会 になってしまうと感じました。やはり現地に行ってカンボジ アの学生の本心を聞いてみたかったです!

🔠 野 📗 とても楽しかったです。カンボジアの学生のお 話も聞けて、私たちのプレゼンも聞いてもらえて、こんな 機会は中々ないと思うので、良い経験が出来たなと思いま す。

松 井 今回、オンライン交流会をやってみて、みなさ んにとって1番の学びは?

高木 自分の偏った考えで、決めつけてたのかなと実 感しました。医療が発達していないだろうとか。PCR検査 等について、カンボジアではそんなにできていないんだろ うと思っていたけど、すごく実施していて、隔離等している と分かった。実際に話して聞くことの大切さが分かりまし た。

小瀬 コロナ対策のことについて、高木くんとやはり 同じように感じました。実際にカンボジアに行ったときに、 訪れないとわからない事実があった。行く前にはカンボジ アに対しての偏見があった。でも行ったら違った。今回も 調べても出てこない事実など、現地の人が話すことによっ て、信憑性が増した。勝手な偏見、思い込みではなく、実 際の経験、現地の人と話すことが大切だと学べた。

それから、現地の学生は発言力が違うと改めて感じました。

上 自分が勝手にイメージしていたことが、実際話 を聞いてみると違うことが多かったので、発展途上国だか らこうだろう、とか、カンボジアだからこうだろう、と勝手 にイメージしておもい込むのはよくないと強く感じました。 それで、そう気づけたこと自体が視野が広がったことにつ ながったので良かったです。交流会の前には、幸福度と経 済力は、生きがいを感じられる要因になるのか、メコン大 学の学生と交流することで見つけたいと考えていました。 経済が生活と大きく関わっていることがお互いの交流から も深く考えることができて良かったです。

渡 邉 オンライン交流会を通して、カンボジアだけで なくもっと世界のことを知りたいと思いました。カンボジア の新型コロナウイルス事情は日本と大きく違いとっても面 白かったです。また、カンボジアの学生の話を聞き、今ま でのコロナに対する価値観が自分の中で大きく変わりまし



た。日本のニュースでは日本のコロナ状況のことしか取り上げません。このオンライン交流会で私は、今の日本はどうしても日本人の価値観でコロナと向き合わなければいけない状況になっていると気付くことができました。もっと色んな国のコロナ状況やいのちの価値観について情報を集め、柔軟な考えを常に持っていたいと思うようになりました。オンライン交流会に参加できて本当に良かったです。来年は現地に行けることを期待しています!

嶋野 日本とカンボジアでの違いを痛感しました。私 が発表した医療従事者についての差別は、カンボジアでは

ほぼなく、むしろ心配すると言うことを聞き、こんなにも真逆なんだと思いました。1番の学びは、伝えることの難しさです。オンラインであったこと、母国語が違うこともありますが、言葉で伝えることはとても難しいことだなと感じました。

松井 みなさん、貴重な意見、感想をありがとうございました。来年は、一緒に現地に行けるといいですね!以上で、カンボジア短期研修オンライン交流会の、振り返り座談会を終わります。

おわりに

学生のみなさんが、オンライン交流会でたくさんのことを感じ、学んでくれたことがわかり、開催して良かったと実感しました。

このZoomでの振り返りに、一緒に参加してくださった保健医療学部の堀内先生が、国際医療に専門的に関わっている視点で、最後に大変貴重なお話をしてくれました。それは、「インパクトと背景」についてでした。

「現地の医療体制や、大学に入学者がいなくなったことなど、その実態を知って「インパクト」を受ける。それは驚きで、そんなに違うんだという実感。でも、そこで止まっていてはいけない。そのインパクトある実態に背景を調べてみないと。なぜカンボジアは、PCR検査をどんどんして、隔離してコロナを封じ込めようとするのか。それは国の事情があって、国が脆弱だから。だから蔓延してしまうと国が大変なことになるから。そういう背景を調べると、研修がもっと深まるのでは」

という内容のお話でした。ここから、学生の皆さんに、そして本研修に新たな課題が見つけられたような気がします。

来年度はコロナ禍が収束し、この記録集が学生のみんなの 「現地レポート」 になっていることを、心から願います。



編集後記

桜花の候 春の気配がようやく整い、過ごしやすい季節となりました。2020年は世界における感染症のパンデミックにより私たちの生活に大きな変化をもたらした。

本学においてもオンライン授業など、遠隔で様々な業務が求められる1年になりました。 私たちが関わる本学の社会・国際連携センターでも予定された留学生の受け入れや海外研修など、代表的な活動も難しくなりました。

毎年のように現地にて異文化を体験したりすることはできない一年になりましたが、これに代わる手段として、オンラインによる交流会が各センター員から提案されました。

近年「Zoom」などのようなオンライン会議用ソフトで授業や会議などがますます便利になり、国際会議などは今ではパソコンやスマートフォンさえあれば可能な時代です。

本誌では、主にオンラインにより実現された内容を紹介しています。オンラインで文化 交流研修を企画するのはセンターとしては初めての試みであったため企画段階から様々な 準備が必要でした。また、学生だけでなく教員自身においてもソフトの準備から学生の遠 隔発表のリハーサルなどこれまでと違う形式で行うことに苦労がありました。しかし、今 回、国境を超えた交流会をオンラインで無事に行うことができたことは私たちにとって大 きな成果になったと言えます。

社会・国際連携センターでは、今後も国内外に対して様々な教育における支援を続けてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

The Center of Social and International Cooperation in Naragakuen University would like to express its gratitude to the University of Dong-A University and Mekong University for its participation in both of our International conferences.

社会・国際連携センター運営委員 オチャンテ・カルロス Center of Social and International Cooperation Carlos Ochante

社会・国際連携センター発刊

〒 636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3 丁目 12-1 Tel.0745-73-6187 Fax.0745-73-6878 http://www.naragakuen-u.jp

